

### ③「西陵50」―母校創立50周年記念写真集・中山軍次(編)を眺める

B5判で僅か40頁の小冊ながら、母校史上に長く残る白眉の写真アルバムの写真である。表裏一体の表紙は上半分の黄色地に「西陵50」のタイトルを掲げ、下半分には長崎市街を俯瞰する写真を置く。母校創立50周年を期し、昭和30(一九五五)年高商19回卒の中山軍次先輩が独断専行の40日間で制作された。中味はモノクロ写真が32頁、其処に大小様々130枚に及ぶスナップを並べ、巻末には学事・学友・同窓会に関する詳細な8頁の「母校史年表」を置く。

編集子の言葉に「文字から一日でも逃れたいのは文明人の悲願、活字で埋めつくした尽くす五十年史では余りに芸がなさすぎる…せめてグラビアでもと、口をすべらしたのが運のつき。お前やれと相成り無謀だった」とある。しかし要諦を抑えた軽妙軽装な編集はこれぞまさしく数奇者のお仕事、以下では早速、見事なアルバムの中味を拝見していこう。

冒頭に校舎全景・校門・校章・校旗・校歌を並べた後、本冊子は母校の心象を①「明治・大正時代」②「昭和時代」③「学位に輝く」④「郷土長崎の観光写真」など小見出しで区分する。

①では六代までの校長肖像・校舎・図書館・研究館、職員小使さん・入試風景・校舎中庭・校内桜・野球試合・寮舎監・ラップ・食堂・風呂場・囲碁・質屋などの写真を掲げる。校外では県立高女、風呂敷包で黒靴下に下駄履の女生徒たち・長崎駅・大浦海岸の人力車群に、浦上天天堂千人のミサ、新地中華料理・丸山の紅灯街などを重ねて終わる。②の昭和時代は七代から十代校長までの戦前・戦中の記憶が中心だ。昭和5年に竣工したが、戦中の17年には消防局に接收された同窓会館―成隣会館内外の瀟洒な姿。面白いのは「就職問題で校長宅訪問は遠慮されたし」と告げる校舎玄関の掲示板。徐々に軍景色を強める運動会、射撃訓練や満蒙へ勤労報国隊出発、熊本帯山練兵場の御親閲から学徒出陣・防火訓練・運動場での農作業など。そして経済専門学校の看板から、戦後の二代学部長の肖像まで、50枚近くの懐かしい絵が並ぶ。それでも編者は「学部発足以来のアルバムに好材料がないので、昭和後編が寂しくなったのが心残り」と言う。これを補うのが③であり、此処には武藤・伊藤・田崎・今村・松野各教授が並べられ、次に合併教室・守衛詰所・体育館など昭和期の校舎増築部分を置く。「うらぶれた講堂」の写真には「ひさし傾き軒まさに落ちんとす。孤狸(ニシヤマノ古狸)変化のすまいに返ったか。これが大学の講堂ですぞ」と軽妙なコメント。

末尾の④では、お宮日の出し物―傘鉾・唐人船・龍踊・阿茶さん人形から、ハタ揚げ・卓袱・茂木枇杷の写真、大浦天守堂・長崎造船所・グラバー庭園から平和祈念像までが掲げられ賑やかだ。母校史年表は、昭和16年から24年までの事歴が比較的丹念に記述されている点も有難い。かくて母校史は「昭和30年10月7日・創立五十周年記念式典を本校舎において挙行」で終わる。これは何時も、私の座右に置いておきたい便利な母校便覧である。(0417)

☆本書の周辺☆「母校史」を唯一冊所有するのなら迷うことなく本冊子。軽妙で軽快で多彩な編集。

但し高商世代の絵ばかりで、学部時代の絵がない。今回、本書の改訂版を出す丈でも人気書になろう。瓊林会館も昨年夏、東南ア研の所有物を複写した。

